

季刊 旬のブンカが集うコミュニティマガジン

ブンカ

BUNKA

vol.
97
2025
summer



旬の文化が集うコミュニティマガジン

季刊

ブンカ

BUNKA vol.97 2025.6.15

発行/公益財団法人 福井県文化振興事業団 福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」
〒918-8152 福井市今市町40-1-1 ☎077-638-2288 <https://www.hfhl.jp>



公益財団法人
福井県文化振興事業団

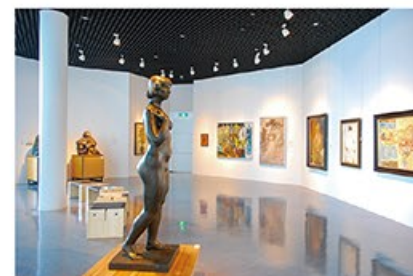


〈第1回〉ふくい文化創造センターのご案内
ふくい文化創造センターオープンしました



ハーモニーホールふくい

福井市美術館（福井市）



常設展「高田博厚の世界」
光が差し込む常設室では福井市ゆかりの彫刻家・高田博厚の作品約50点を展示。彫刻がガラスの向こうの景色と一体化して「共生」を表現している。

福井市美術館
【アートラボふくい】
場所／福井市下馬3丁目1111
TEL.0776-33-2990
開館時間／9:00～17:15
休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）
祝日の翌日（日曜日を除く）
年末年始
〈インフォメーション〉
7月13日まで
「THE新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦」開催中

周囲の自然と一体化
想像力を刺激する美術館

円筒形のエントランスに、波打つようなカーブを描きながら連なる展示棟。どこか不思議な印象を与える建物ですが、周囲の自然に溶け込みつつ象徴的なアイコンとなっています。

1997年開館の福井市美術館、設計したのは世界的建築家の故・黒川紀章氏です。黒川氏は「自然と共生する建物」を念頭に、直線が存在しない自然界に溶け込むよう曲線を多用。展示スペースの光や温度・湿度は管理しつつも、通路などは中から、総ガラス張りを採用しました。一方で全体が上部に緩く広がるラインは太陽光が入りにくく、熱効率も考慮。当時の美術館の概念を覆した実験的なこの建物は、後の国立新美術館（東京・六本木）の原型にもなっています。

「アートラボふくい」の愛称を持つ同館。鑑賞と共に創作を大切にしている美術館を掲げ、市民らにアトリエ環境も提供。想像力を刺激する空間では、日々小さなアートが芽吹いています。

※表紙の写真は、魚眼レンズを付けたカメラで4方向360度撮影したものをパノラマ合成したものです。

CONTENTS

- 1 今号の表紙
- 2 TOP INTERVIEW アートと私 徳本達郎氏（株式会社ジャクエツ 代表取締役社長 CEO）
- 3 Interview 新時代の人気指揮者がいつも大切にしていること 指揮者 沖澤のどか氏
- 5 Piano Stars 百花繚乱のスターたちがピアノ音楽の魅力をお届け
- 6 「ハーモニーホールふくい」自主公演情報
- 9 2025年7～9月開催「ハーモニーホールふくい」コンサート情報
- 10 越のルビーアーティスト 白根奈々氏（ソプラノ）
- 11 ふくい文化創造センターのご案内 第1回 ふくい文化創造センターオープンしました
- 13 アートシーン 〈キーパーソン〉一般社団法人 産業人文学研究所 代表理事 佐藤靖之さん
〈アートの息吹〉M/SPACE（越前市）／〈アートプロジェクト インフォメーション〉
- 15 寄稿 福井で発見「悲しみのマリア像」秘めた苦難の歴史 伊与登志雄氏（福井新聞社特別編集委員）
- 16 古きを訪ねて 庚申信仰（小浜市）
- 17 Essay 地域文化の中にある学びと体験 文 朝倉由希氏
- 18 Information

TOP INTERVIEW

アートと私

株式会社ジャクエツ
代表取締役社長 CEO

徳本達郎氏

体験とゆとりがアートの扉を開きます。

美術品が身近にあった幼少期
事業でもアートを手がける

アートとの関わりは、やはり両親の影響が大きかったですね。2人とも絵画や陶芸品などが好きで、父親が収集した作品が身近にある環境で育ちました。社会に出てからは、会社の事業を通じて多くの作家さんとのご縁をいただき、さらに世界が広がりました。

当社がアート作品を手がけるようになったのは40年以上前。私はまだ

大学生でした。当時社長だった父は、理事を務めていた敦賀信用金庫の創立50周年記念に、「奥の細道」の旅で敦賀を訪れた松尾芭蕉の像を建てることを提案。彫刻家で後に文化勲章を受賞された富永直樹先生に制作をお願いし、氣比神宮に設置させていただきました。

これ以降、会社の事業として、アート作品をシンボルに、人々に愛されるに残る空間を提供しています。幼稚園の園長先生と子どもたちの記念像や、敦賀市のシンボルロードを飾る松本零士さんの作品ミニチュメントなどを制作してきました。

多様な視点と時間の積み重ねから
新しいデザインが誕生する

当社は2015年に遊びの研究所「PLAY DESIGN LAB」を設立し、各分野の専門家と協力してさまざまな企画を進めています。その中の「RESILIENCE PLAYGROUND」プロジェクトは、わが社の玩具デザイナーが、福井で地域医療に取り組む紅谷浩之先生と出会ったのをきっかけにスタートしました。「遊びの場が少ない医療的ケア児も一緒に楽しめるように」と、トランポリンなどのインクルーシブ遊具を開発。今年3月には、

福井市中央公園に設置していただきました。

この遊具は、誰もが持っている遊びたいという気持ちに寄り添い、さまざまな個性が響き合うようにデザインされています。完成までに費やした期間は約4年間。「文化やアートは効率では計れない」。すぐに結果を求めない余白の許容が大事な時代に入っている気がします。

人が生きる上で最大のエネルギーは、時間を忘れるくらい熱中した体験です。心揺さぶられた作品を身銭を切って購入し、近くに置いてとことん味わう。作品を買うことは、新しい自分を買うことだと感じています。



本社1階には、1960年代から電気製品など多様なデザインを手がけ、世界中のデザイナーに大きな影響を与えたディーター・ラムスの作品コレクションを展示。博物館などでしか見られない本物が社員の感性を刺激する。

指揮者

沖澤のどか

Nodoka Okisawa

新時代の人気指揮者が
いつも大切にしていること



おきさわのどか●2018年東京国際音楽コンクール(指揮)優勝。2019年プザンソン国際指揮者コンクール優勝。第21回(2022年度)斎藤秀雄メモリアル基金賞 指揮部門など受賞多数。2020-22年ベルリン・フィル・カラヤン・アカデミー奨学生及びK.ベトレンコ氏のアシスタント。2022/23シーズンのミュンヘン響アーティスト・イン・レジデンス。セイジ・オザワ松本フェスティバル首席客演指揮者。「青い海と森の音楽祭」芸術総監督。青森県生まれ。東京藝術大学とハンス・アイスラー音楽大学ベルリンで修士号を取得。2023年4月から京都市交響楽団第14代常任指揮者に就任。ベルリン在住。

今、世界的に指揮者の世代交代が進んでいます。沖澤のどかさんは、日本から登場した新世代を代表する指揮者のひとり。今や国内外の著名オーケストラから次々とオファーが来る人気指揮者の沖澤さんに、仕事からプライベートまで、たっぷり語ってもらいました。

音楽好きの少女が指揮者の道を歩むまで

「4歳年上の姉の影響で幼い頃から自然にピアノを弾き始め

ました。小学校3年生の時からチェロを習い始め、ジュニアオーケストラに参加。また高校時代は吹奏楽部でオーボエにものめり込みました。こうした経験から、人と一緒に音を合わせる、ということがすごく好きになり、大学で音楽を勉強したいと考えるようになりました」

大学受験に際しては、両親から「国立大学ならどこでもいい」と言われたため、東京藝術大学を目指すことに。指揮科に決めたのは、実技以外の試験を頑張れば合格できそうだったのと、とにかく藝大に入ることができれば何かしら音楽に浸れるという強い思いからだそうです。しかし、晴れて藝大に入学したものの、なかなか思うようにいかないことがあり半年間大学を休学。退学して音楽の道を諦めることも考えるほど追い詰められました。

「藝大ではプロのオーケストラを指揮する機会にあまり恵まれません、だんだん学校に通うこととオーケストラを指揮することと自分の中で結び付かなくなっ

てしまったのだと思います。そんな中で転機となったのが、オーケストラ・アンサンブル金沢との出会いでした。音楽監督だった井上道義さんのマスタークラスに参加し、井上さんから指揮研究員にならないかと誘っていたいただきました。大学院を休学して1年間の金沢行きを決意。そこで、現場に出るってこういうことなんだ、というのが垣間見えて、ようやく腹をくくれたと思います」

手兵の京響と贈る対照的なふたつの作品

今回沖澤さんと一緒に来福するのは、2023年4月から常任指揮者を務めている京都市交響楽団です。

「京響は、日本のオケには珍しく非常にダイナミックで、大きな流れを自然につくることができるのが特徴です」

指揮者としてオーケストラと関係を作っていく上で大切にしているのは「音楽をいちばんいい状態でお客様に届けたいという目的を見失わないこと。指揮者

はよく経営者と比べられますが、私の場合は、あまり人を動かそうと思わずに、できるだけ自然体でいるのが良い結果を生むのだそう。

9月の演奏会では、リムスキー＝コルサコフの交響組曲「シェエラザード」と、19世紀フランスの女性作曲家ルイーゼ・ファランクの交響曲第3番というちよつと珍しい作品を取り上げます。

「ファランクはシューベルトやベートーヴェンを思わせる、整ったスタイルを持っており、これはひとつの古典作品として取り組む価値があると選びました。『シェエラザード』は京響が得意とする大絵巻的な音楽。京響が誇る豪華コンマス石田泰尚さんと一緒に、福井の皆さまに自信を持ってお届けします」

多忙な生活の中でも子どもたちの時間を作る

プライベートでは2人の子どもを育てるママでもある沖澤さん。演奏のクオリティを保つために「1〜2カ月集中して仕事

をしたら1ヵ月休み」というスケジュールを組んでいるそう。旅から旅へ、忙しい生活の中で大切にしていることは？

「1日に10分でも15分でもいいから、すべてを忘れて子どもを連れて行くようにしています。旅から子どもたちが何かを感じ取ってくれればと思っています」

構成・文/室田尚子

(音楽評論家)

9/24(水) 協賛: FUKUVI 福井信用金庫

沖澤のどか指揮 京都市交響楽団

大ホール/開場 18:15 開演 19:00
S席・車いす席 ¥7,000 A席 ¥6,000 B席 ¥5,500
C席 ¥4,500 (小・高校生:半額)
出演/指揮:沖澤のどか、管弦楽:京都市交響楽団
曲目/ファランク:交響曲 第3番
リムスキー＝コルサコフ:交響組曲「シェエラザード」
(ヴァイオリン:石田泰尚(京響ソロコンサートマスター))
(共催:FBC) ※詳細はP.6へ

俊英・沖澤とカリスマ・石田 その魅力を福井で堪能する



指揮：沖澤のどか



ヴァイオリン：石田泰尚



管弦楽：京都市交響楽団

9/24(水) 協賛：FUKUVI 福井信用金庫

沖澤のどか指揮 京都市交響楽団

大ホール／開場 18:15 開演 19:00
S席・車いす席 ¥7,000 A席 ¥6,000
B席 ¥5,500 C席 ¥4,500 (小～大学生：半額)
出演／指揮：沖澤のどか、管弦楽：京都市交響楽団
曲目／「ファンク」交響曲 第3番
リムスキー＝コルサコフ：交響組曲「シェエラザード」
ヴァイオリン：石田泰尚(京響ソロコンサートマスター)
(共催：FBC)

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：6/17(火) 友の会：6/18(水)
一般 6/21(土)

先着150名様無料ご招待!

対象／小学1年生～18歳以下
受付期間／6/21(土)10:00～9/10(水)17:00

詳細は
こちら→



2023年にハーモニーホールふくいでヤナーチーク・フィルハーモニー管弦楽団を指揮し、大好評を博した沖澤のどか。この9月に、常任指揮者を務める京都市交響楽団を率いて再来福します。沖澤が第14代常任指揮者に就任したのは2023年4月ですが、以後、彼女が指揮する定期演奏会は常に高い評価を受けており、京響との相性の良さを感じさせます。2年を経て、まさに両者の関係は成熟期に入ったといえるでしょう。そんな中での福井公演のプログラムに、沖澤はリムスキー＝コルサコフの交響組曲「シェエラザード」を選びました。

「京響とは大編成の曲を中心に取り組んでいます。もともとオーケストラが持っているエネルギーが大きいので、大きな絵が描けるのが特徴です。リムスキー＝コルサコフの「シェエラザード」は、まさにそんな京響が得意とする作品。以前、聴衆として聴いたことがありとても素晴らしいと思っていました。特に今回は、京響が誇る豪華コンマス陣のひとり、石田泰尚さんのソロを存分にお楽しみいただきたいと思います(沖澤談)

京響のソロコンサートマスターを務める石田泰尚は、カリスマの人氣を誇るヴァイオリニスト。2014年に石田の呼びかけで結成した弦楽アンサンブル「石田組」は、日本でも有数の「チケットの取れないアンサンブル」として知られており、2024年11月には日本武道館での公演を大成功させています。

7/13(日) 協賛：関西電力 power with heart

松井秀太郎 DUO

会場／美浜町生涯学習センターなびあす
開場 14:15 開演 15:00
全席指定・車いす席 ¥3,000 (小～大学生：半額)
出演／トランペット、フルーガルホルン：松井秀太郎
ピアノ：豊阪健登
曲目／「ガーシュウィン：ラプソディ・イン・ブルー」(トランペット&ピアノ版) ほか
(共催：美浜町、美浜町教育委員会)

チケット発売中 ハーモニーバス運行 (HMF-なびあす間の無料バス)



ピアノ：豊阪健登



トランペット：松井秀太郎

新時代の風を感じに
なびあすに行こう！
ジャズ界の巨匠・小曾根真に見出された2人の若手アーティスト。トランペットの松井秀太郎は国立音楽大学で学び、ジャズに転向した後もジャンルを問わず多彩な活動を展開。ピアノの豊阪健登も同じくジャズを中心に、フランスのラ・フォル・ジュルネに招待されるなど多彩な才能の持ち主。そんな2人が美浜町の「なびあす」で新しい音楽を奏でます。

ハーモニーバス(坂井市・大野市内からの無料バス)を運行！
お問い合わせはハーモニーホールふくい TEL.0776-38-8289(9:00～19:00・休館日を除く)

フレンドリーアート号(嶺南地域からの無料送迎バス)のお申し込みは
福井県文化課 TEL.0776-20-0582まで。

Piano Stars

百花繚乱のスターたちが
ピアノ音楽の魅力をお届け

2025年のハーモニーホールふくいは「ピアノの年」！実力と人氣を兼ね備えた「ピアノ・スター」たちが続々と登場します。奇しくも、今年第18回シヨパン国際ピアノコンクールが開催されており、すでに予備予選が終了して、10月から始まる本大会に進む85名が発表されています。その中には16名の日本人ピアニストの名も。前回大会で第4位を獲得した小林愛実、12月13日にハーモニーホールふくいの小ホールでソロ・リサイタルを予定しています。減多にない機会をお聴き逃しのないように！



ピアノ：ブルース・リウ



指揮：ラハフ・シャニ



管弦楽：ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団

時代とともに新しいスターを生み出してきたシヨパンコンクール。前回大会の覇者であるブルース・リウが、いよいよ6月25日、ハーモニーホールふくいの舞台上にその姿を見せます。正統的な演奏で堂々たる實力を見せつけたシヨパンコンクールの優勝以来、世界中で引つ張りだこのブルース・リウ。今回の福井公演では、プロコフィエフのピアノ協奏曲の中でもっともよく知られている第3番を演奏します。華やかなテクニクと色彩豊かな表情を持つ音楽で、多くのピアニストが好んで取り上げる名曲。今、世界から注目を集める

若き巨匠、ラハフ・シャニ率いるオランダの名門ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団とともに贈る、20世紀を代表する傑作にご注目ください。

10月には、全欧・全米で大ヒットのイケメン・デュオ「ピアノ・バトル」が登場。それぞれ黒と白のスーツに身を包んだボールとアンドレアスが、「名曲対決」「超絶技巧対決」「エンタメ対決」など5ラウンドでパフォーマンスを繰り広げ、観客はその勝敗をジャッジするという、新しいスタイルのコンサートです。これまでに母国ドイツをはじめ世界各国で25万人以上を動員した、音楽によるスーパースター・エンターテインメント・ショーといえるでしょう。司会は、元テレビ朝日アナウンサーで、コンサート・ソムリエとしてクラシックコンサートの企画構成も手がける朝岡聡。音楽愛あふれる名司会で、私たちの熱き「ピアノ・バトル」を盛り上げます。



ピアノ・バトル

協賛：FUKUVI

小林愛実
ピアノ・リサイタル

12.13(土)

14:15開場 15:00開演
小ホール
全席指定・車いす席 ¥5,000
(小～大学生：半額)
出演／ピアノ：小林愛実
曲目／シューマン：クライスレリアーナ ほか
チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：9/9(火) 友の会：9/10(水)
一般 9/13(土)

協賛：Kauca 興和江守株式会社

クラシック・エンターテインメント！
ピアノ・バトル

10.24(金)

18:15開場 19:00開演／大ホール
全席指定・車いす席 ¥4,000
(小～大学生：半額)
出演／ピアノ：ボール・シビス、アンドレアス・カーン
通訳・MC：朝岡 聡
曲目(予定)／ドビュッシー：月の光 ほか
(共催：福井テレビ)

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛：7/15(火) 友の会：7/16(水)
一般 7/19(土)

協賛：福井銀行 福井新聞社

ラハフ・シャニ指揮
ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団
ピアノ：ブルース・リウ

6.25(水)

18:15開場 19:00開演／大ホール
S席・車いす席 ¥18,000 A席 ¥16,000
B席 ¥12,000 バックシート ¥10,000 (小～大学生：半額*)
出演／指揮：ラハフ・シャニ、ピアノ：ブルース・リウ
管弦楽：ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団
曲目／プロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第3番、プーテン：交響曲 第4番 ほか
(共催：福井テレビ)

チケット発売中 *学生特別チケット：受付終了



アコーディオン: シャロン・シャノン



ダンス: ザ・ステップクルー・トップ3 with ダン・ステイシー

協賛: 福井テレビ ケルティック・クリスマス2025 シャロン・シャノン& ザ・ステップクルー・トップ3 with ダン・ステイシー 11.29(土)

15:15開場 16:00開演/大ホール
全席指定・車いす席 ¥5,000
(小~大学生:半額)

出演/アコーディオン:シャロン・シャノン(バンド編成)
ダンス:ザ・ステップクルー・トップ3 with ダン・ステイシー
(ジョン&ネイサン・ピラツキ
キャラ・パトラー、ダン・ステイシー)

〈同日開催〉

♪メンバーによるダンスワークショップ
♪ピーター・バラカンによるトークイベント
♪クリスマス・マルシェ
※詳細は8月下旬WEBに掲載予定



チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 8/19(火) 友の会: 8/20(水)
一般 8/23(土)

ピーター・バラカン絶賛!
シャロンが贈る特別なクリスマス
ハーモニーホールふくいのクリスマスには、ケルトやアイルランド、北欧のミュージシャンたちが訪れています。今年、アイルランド・ケルト音楽を代表するアコーディオン奏者であるシャロン・シャノンが登場。アイルランドの音楽大使として世界中を飛び回るシャロンですが、日本にも大勢のファンがいます。そのひとりが、ブロードキャスター、DJとして活躍するピーター・バラカン。「彼女の魔法のアコーディオンとの出会いからもう30年近く経ちますが、シャロンほど無条件で幸せな気分になれるミュージシャンは稀です」とコメントを寄せてくれました。当日はナビゲーターとして登場予定です。さらに、ダンスチーム「ザ・ステップクルー」やアイリッシュバンドのツァーなど多数活躍しているトップダンサーたちが参加。一足早いクリスマスをハーモニーホールふくいでお楽しみください。



ピアノナビゲーション: 高橋かほる オルガン: 山本真希
クラリネット: 南部匡恵
サクソフォン: 片山奈々愛 マリンバ: 平岡愛子

協賛: 公財)げんてんふれあい福井財団 ハーモニーぴくにつく ~ゆれる・はねる・おどる・ダンス!!!~ 7.6(日) チケット発売中

2回公演 ① 9:30開場 10:00開演
② 11:30開場 12:00開演
大ホール

全席指定・車いす席 ¥1,000(0歳~高校生:半額)
出演/ピアノナビゲーション:高橋かほる
オルガン:山本真希、クラリネット:南部匡恵
サクソフォン:片山奈々愛、マリンバ:平岡愛子

日曜日は家族で
音楽を楽しもう!
オルガンと色々な
楽器がコラボする45
分間のコンサート。
今回のテーマは「リズム」。
高橋かほるナビゲーターで、福井在住のアーティストたち
がお届けします。



ソプラノ・プロデュース: 白根奈々
テノール: ケーシー・ハシモト ピアノ: 北野友梨

協賛: NICCA 秋の子ども音楽会 「ステージできく」コンサート(仮題) 10.5(日)

2回公演 ①10:30開場 11:00開演 ②13:30開場 14:00開演
大ホールステージ

ステージ席(全席自由) ¥2,000(0歳~高校生:半額)
出演/ソプラノ・プロデュース:白根奈々、テノール:ケーシー・ハシモト、ピアノ:北野友梨
(制作補助:一般公募のディレクターズ)

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 7/15(火) 友の会: 7/16(水) 一般 7/19(土)

今年もやって来た!
みんなで音楽を楽しむ秋
自身も2人の子どもの母を持つソプラノの白根奈々プロデュースでお贈りする「秋の子どもの音楽会」。全国を駆け回るテノールのケーシー・ハシモトを迎え、とびきり楽しい音楽を皆さまにお届けします。一般公募のディレクターズの活躍も期待大です。

音楽を学ぶ子どもたちの中から、公開オーディションを勝ち抜いたメンバーが出演する「若い芽コンサート」。ついに20回目を迎えます。今年出演する3人はすべて高校生。ピアノの加藤 祈と松原百奏は共に桐朋女子高等学校音楽科で学んでいます。加藤はドビュッシーのエチュードとシマノフスキの「変奏曲」、松原はスクリャービンの「幻想ソナタ」といういずれも大人顔負けのプログラムに挑みます。ソプラノの谷るいは、福井で研鑽を重ねる県立大野高等学校3年生。ベルカント・オペラのレパートリーで実力を発揮してくれるでしょう。
後半のフェスティバル・カルテットとの共演でもそれぞれ選抜された選曲が目を惹きます。今、まさにプロの世界へと一歩を踏み出そうとしている逸材たちの奏でる音楽に耳を傾けにいらしてください。



ピアノ: 加藤 祈
ピアノ: 松原百奏
ソプラノ: 谷るい

今、まさに世界へと踏み出す
3人の高校生を応援しよう

主催: 福井新聞社 若い芽コンサート2025 8.10(日)

18:15開場 19:00開演/小ホール
全席自由・車いす席 ¥2,000
(小~大学生:¥500)

出演/ピアノ:加藤 祈
ピアノ:松原百奏
ソプラノ:谷るい
フェスティバル・カルテット
(ヴァイオリン:松谷由美、荒井亮子
ヴィオラ:笠川 恵、チェロ:荒井 結)
構成/第1部:ソロ・ステージ
第2部:弦楽四重奏との共演ステージ

チケット発売中



ヴァイオリン: 篠原悠那
チェロ: 坪井大典
ピアノ: 徳永雄紀

協賛: 福井新聞社 FBC 福井テレビ 越のルビープロジェクト 篠原悠那&坪井大典&徳永雄紀 ピアノ・トリオ ~15年ぶり再結成~ 8.22(金)

18:15開場 19:00開演/小ホール
全席指定・車いす席 ¥3,000
(小~大学生:半額)

出演/ヴァイオリン:篠原悠那
チェロ:坪井大典、ピアノ:徳永雄紀
曲目/笠松泰洋:ピアノ・トリオのための「メロディー」
~ゴールドベルク山根美代子氏の思い出に~
メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第1番 ほか

チケット発売中

福井出身の3人を繋いだ
思い出のピアノ・トリオ

幼少期から福井で音楽を学び、現在は国内外で活躍する篠原悠那、坪井大典、徳永雄紀の同級生3人が、15年ぶりにピアノ・トリオとしてハーモニーホールふくいに登場します。15年前に初めてピアノ・トリオを組んだ時に演奏したのが、メンデルスゾーン「ピアノ三重奏曲」でした。ピアノ三重奏の中では特に人気の高い1曲で、チェロの坪井はその魅力をことう語ります。
「チェロの物悲しくも強い意志を感じさせるメロディーで始まり、ピアノの名手だったメンデルスゾーンらしくピアノには華やかな技巧が盛り込まれています。そのピアノに絡んでいくヴァイオリンの旋律の巧みさも聴きどころです」
3つの楽器が見事に調和したドイツ・ロマン派初期の傑作を、福井が生んだ盟主たちの演奏で存分にお楽しみください。

先着50名様無料招待!
対象/小学1年生~18歳以下
受付期間/8/8(金)17:00まで
詳細はこちら



しらね・なな ●越前市在住。兵庫県宝塚市出身。兵庫県立西宮高等学校音楽科卒業後、大阪音楽大学声楽専攻卒業。同大学大学院オペラ研究室で1年間学ぶ。第38回福井県音楽コンクール知事賞受賞。福井県新人演奏会出演。宝塚少年少女合唱団指導アシスタントを経てJAPAN YOUTH CHOIR松山公演参加。越前市アンサンブルユニット「音♪はもん」メンバー。西宮音楽協会会員。

「幼い頃からいつも音楽が身近にあり、気がついたら歌っていました」と振り返る白根さん。小学1年生になると合唱団に入り、自然な流れで音楽の道を進んでいきました。音楽大学の4年次に受けたオペラの授業では、「みんなと作り上げる楽しさ」を実感。大学院のオペラ研

究室に入り、その奥深さを学びました。常に音楽とともにいた白根さんですが、結婚して東京に移ると環境が大きく変化します。歌を離れ、子育てに追われる日々。転機となったのは、福井県への移住でした。夫が家業を継ぐにあたり、家族で越前市へ。豊かな自然に囲まれた暮らしに安らぎを感じつつも、歌への思いは捨てきれず、「私は歌がないと生きていけない」と再び歌うことを決意。復帰後に臨んだ福井県音楽コンクールでは、見事、知事賞に輝きました。

「歌っている時が一番、生きていると感じられる」と白根さん。今では県内外で積極的に活動。歌、家業、家庭の両立を模索する日々です。「家族の応援や周りのサポートに感謝するとともに、同じように子どもがいて活躍されている越のルビーアーティストの方に励まされています」とほほ笑みます。10月にハーモニーホールふくいで開催される「秋の子ども音楽



2023年10月5日「文化庁委託事業 東海北陸地域劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会」マリンバ：平岡愛子氏、山崎智里氏



2022年1月16日「越のルビープロジェクト 白根奈々 心に響く日本のうた」ピアノ：泉麻衣子氏

■今後の活動
6月29日(日)：「越の都ホール友の会ご優待コンサート 音♪はもんTEATIME CONCERT」／越前市文化センター
10月5日(日)：「秋の子ども音楽会「ステージできく」コンサート(仮題)」／ハーモニーホールふくい

越のルビーアーティストとは、(公財)福井県文化振興事業団運営の「越のルビーアーティストバンク」に登録する福井県出身もしくは在住のプロの演奏家のこと。このアーティストバンクの活動に(公財)げんてんふれあい福井財団にご支援をいただいております。



公式ホームページでは「越のルビーアーティスト」の演奏動画もご覧いただけます。
<https://www.hnf.jp/artistbank/>

福井ゆかりの音楽家 越のルビーアーティスト 白根奈々 (ソプラノ)

豊かな四季と歴史、伝統。
福井だからできる
音楽がきつとあると思う。

9 (火) 第35回 ハーモニー・ブカさん
〜J.シュトラウスⅡ 生誕200年記念によせて〜
●小ホール ●13:30開演
●全席自由2,500円
◎ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

14 (日) 第53回 全国アマチュアオーケストラフェスティバル
福井大会〜フェスティバルコンサート〜
●大ホール ●14:00開演
●一般券1,000円 大学生以下券500円
◎実行委員会
✉:jao.fukui@gmail.com

15 (月・祝) 2025 MUSIC FESTIVAL
いとうかな音楽教室 発表会
●小ホール ●10:00開演
●無料(関係者のみ)
◎いとうかな音楽教室
☎090-9449-6441

20 (土) さくらマーチングフェスティバル
●大ホール ●10:15開演
●無料(関係者のみ)
◎社会福祉法人 さくら会
☎0776-26-1192

第10回 フジオカリナ教室 発表会
●小ホール ●13:00開演 ●無料
◎フジ音楽センター ☎076-272-8364

21 (日) 第54回 琴と尺八
●小ホール ●13:00開演 ●無料
◎福井県三曲協会 林
☎090-3154-0821

23 (火・祝) ピアノ・エレクトーン発表会
●小ホール ●10:00開演
●無料(関係者のみ)

24 (水) 沖澤のどか指揮
京都市交響楽団
●大ホール ●19:00開演
●S席・車いす席:7,000円 A席:6,000円
B席:5,500円 C席:4,500円
◎ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

「子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」対象公演
小学生〜18歳以下無料ご招待
(先着順/要申込)
※申込方法はP.6をご覧ください

27 (土) 北陸中学校・高等学校
吹奏楽部
第22回 定期演奏会
●大ホール ●17:00開演
●全席自由500円
◎北陸高等学校 ☎0776-23-0321

伊藤ピアノ教室 発表会 2025
●小ホール ●13:00開演
●無料(関係者のみ)
◎伊藤ピアノ教室 ☎090-2098-1448
✉:fukuwindmusic@gmail.com

28 (日) 北陸中学校・高等学校
吹奏楽部
第22回 定期演奏会
●小ホール ●14:00開演
●全席自由500円
◎北陸高等学校 ☎0776-23-0321

17 (日) 加藤智美ピアノ教室 発表会
●小ホール ●9:30開演
●無料(関係者のみ)
◎加藤智美ピアノ教室
☎090-8061-0264

22 (金) 「越のルビープロジェクト」
篠原悠那&坪井大典&徳永雄紀
ピアノトリオ 〜15年ぶり再結成〜
●小ホール ●19:00開演
●全席指定・車いす席:3,000円
◎ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

「子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」対象公演
小学生〜18歳以下無料ご招待
(先着順/要申込)
※申込方法はP.7をご覧ください

23 (土) 令和7年度 第76回
福井県音楽コンクール 予選会
(弦楽部門・管楽部門・声楽部門・マリン部門)
●大・小ホール ●10:00開始
●無料
◎福井県音楽コンクール運営委員会事務局
☎070-5060-0592

24 (日) 令和7年度 第76回
福井県音楽コンクール 予選会
(ピアノ部門)
●大・小ホール ●10:00開始 ●無料
◎福井県音楽コンクール運営委員会事務局
☎070-5060-0592

29 (金) 昭和100年・輝け! 昭和歌謡
●小ホール ●11:30開演
●全席自由500円
◎ヴォーカリスト 福井 華村
☎090-3298-2093

31 (日) ミュージックコンサート
●小ホール ●11:45開演
●無料(関係者のみ)
◎山口佳代ピアノ教室
☎0776-33-0116

9月 6 (土) 小野リサ ボサノバコンサート
「アゲイン」
●大ホール ●15:00開演
●全席指定・車いす席:6,500円
ペア券:11,000円
◎ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

福井石川室内楽演奏会
〜木管アンサンブルの調べ〜
●小ホール ●14:00開演
●一般:1,000円 高校生以下:500円
◎福井石川木管アンサンブル 齊藤
☎090-1395-6348
✉:fukuwindmusic@gmail.com

7 (日) 第58回 都山流 尺八演奏会
●小ホール ●13:00開演
●無料
◎都山流尺八楽会福井県支部 水井
☎090-3291-0669

26 (土) 第57回 福井県吹奏楽コンクール
(全日コンクール県予選)
●大ホール ●9:30開演
●全席自由:1,300円
(会場にて当日券を販売)
◎武生第二中学校 宮本
☎0778-23-1422

27 (日) 第57回 福井県吹奏楽コンクール
(全日コンクール県予選)
●大ホール ●10:00開演
●全席自由:1,300円
(会場にて当日券を販売)
◎武生第二中学校 宮本
☎0778-23-1422

31 (木) 第57回 福井県吹奏楽コンクール
(中日コンクール県予選)
●大ホール ●10:00開演
●全席自由:1,300円
(会場にて当日券を販売)
◎武生第二中学校 宮本
☎0778-23-1422

8月 2 (土) 令和7年度
福井県合唱コンクール
●大ホール ●13:00開演
●全席自由:700円
◎敦賀気比高等学校 田丸
☎0770-24-2150

3 沙蘭音楽院 第5回発表会
サマーコンサート
(日) ●小ホール ●12:30開演
●無料(関係者のみ)
◎沙蘭音楽院 ☎080-9035-5880

8 (金) 第92回
NHK全国学校音楽コンクール
福井県コンクール
●大ホール ●10:30開演(予定)
●入場無料・観覧自由
(混雑状況により入場制限の場合あり)
◎NHK福井放送局 ☎0776-28-8850
(平日10:00〜17:00)

10 (日) 若い芽コンサート 2025
●小ホール ●19:00開演
●全席自由・車いす席:2,000円
(小〜大学生:500円)
◎ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

11 (月・祝) 第25回 よつば会 ピアノ発表会
●小ホール ●13:30開演
●無料(関係者のみ)
◎よつば会 谷本恵ピアノ教室
☎0776-98-4860

16 (土) ほやほや たのしもっさ
みんなのコンサート
●小ホール ●14:00開演
●無料(下記アドレスへ要申し込み)
◎北陸中学・高校 合唱同好会 山本
✉:e-yamamoto@hokuriku.ed.jp

7月 4 (金) 木下由香
ピアノリサイタル
●小ホール ●19:00開演
●一般:2,000円
学生:1,000円
◎木下 ☎0776-43-6633

5 (土) 第30回
Little Pianist Concert
●小ホール ●16:00開演(予定)
●無料(関係者のみ)

6 (日) ハーモニーびくにつく
〜ゆれる・はねる・おどる・ダンス!!!〜
●大ホール ●10:00開演 / 12:00開演
●全席指定・車いす席:1,000円
(0歳〜高校生:500円)
◎ハーモニーホールふくいチケットセンター
☎0776-38-8282

13 (日) 男声合唱団 ダンネリオン 演奏会 2025
〜世代を超えてつくるハーモニー〜
●小ホール ●14:00開演
●全席自由:1,000円
◎男声合唱団 ダンネリオン 小林
☎090-2125-5080

19 (土) 2025 カワイ
ミュージックフェスティバル
●小ホール ●開催時間未定
●無料(関係者のみ)
◎味河合楽器製作所 福井店
☎0776-23-6327

20 (日) 2025 カワイ
ミュージックフェスティバル
●小ホール ●開催時間未定
●無料(関係者のみ)
◎味河合楽器製作所 福井店
☎0776-23-6327

21 (月・祝) 2025 カワイ
ミュージックフェスティバル
●小ホール ●開催時間未定
●無料(関係者のみ)
◎味河合楽器製作所 福井店
☎0776-23-6327

23 (水) 武生国際音楽祭 2025
サマーコンサート
〜ケアルテット・インテグラ&大宅さおり〜
●小ホール ●19:00開演
●全席自由:1,000円
◎武生国際音楽祭推進会議
☎0778-23-5057

25 (金) 第57回 福井県吹奏楽コンクール
(全日コンクール県予選)
●大ホール ●10:30開演
●全席自由:1,300円
(会場にて当日券を販売)
◎武生第二中学校 宮本
☎0778-23-1422

※□部は、当ホールの自主公演でP.3〜P.8、P.18に見どころなどが紹介されています。(8/22、9/6、9/24は、小学生から大学生まで半額)
※掲載内容は都合により変更される場合がありますので、予めご了承ください。(6/4時点の情報です) ※チケットに関するお問い合わせは、各主催者までお願いします。

文化芸術活動の担い手を応援

アートプロジェクト支援事業



どんな事業なの？

地域の歴史、伝統芸能、美術、音楽などの文化資源を活用し、地域の魅力向上や新たな地域文化の創造、地域課題の解決を目的に、地域住民が主体となり地域活性化に取り組む事業を支援するものです。

対象

福井県内に主たる活動拠点を置く団体
(法人格の有無、種別は問いません)

対象となる事業

- 文化芸術を活用した地域住民、団体等との協働の事業
- 地域の魅力や価値を高め、県内外に発信する事業
- 将来ビジョンが明確であり、次年度以降も継続的に取り組む事業



2024年度に支援したプロジェクトの様子です(一部)



採択事業は
ホームページを
ご覧ください

どんな支援なの？

助成区分	対象	助成額	助成率	採択数
特定プロジェクト支援	①チャレンジ枠	複数の文化団体や他分野と連携して企画実施する新たな文化芸術事業	200万円	2件
	②インクルーシブ枠	障がいの有無にかかわらず参加・体験できる文化芸術事業	10/10	3件
	③次世代育成枠	次世代を担う子どもの創造力や表現力を養う文化芸術事業		
	④担い手育成枠	文化芸術活動の担い手を育成する事業		
プロジェクト支援	新たな地域の文化創造に寄与する文化芸術事業	150万円	2/3	12件
地域の魅力向上支援	①活動基盤強化枠	地域の魅力向上に寄与する継続的な文化芸術事業	1/2	19件
	②活動活性化枠	既存事業に新たなチャレンジを盛り込んだ文化芸術事業		4件

地域の魅力向上支援①②の区分は7月以降に二次募集を行います。詳細は追ってご案内します。

おまかせください！こんな支援や取り組みも行っています♪

文化芸術ミーティング

アートプロジェクトの事業運営のレベルアップや、実践者同士の交流による団体間の連携強化、ネットワークづくりを目的として、研修会や交流会を年3回程度開催します。



アート茶会

アートや地域づくりなどに関心のある地域住民が、実践事例のお話を聞いたり、自由に語り合ったりして、活動の新たなアイデアや人とのつながりを生み出す気軽なお茶会を定期的に開催します。



伴走支援

アートプロジェクト実践団体の活動に寄り添いながら、事業を運営するうえでの困りごとの解決策と一緒に考えたり、今後の事業の方向性を整理して提案したりするサポートを、通年でを行います。

アーツカウンシルって？

地域の文化芸術の振興を目指し、助成金を出したりイベントやプロジェクトを支援したりする専門の組織です。現場の声を大切にしながら、行政だけでは届きにくいところにも寄り添うなど、文化芸術の“橋渡し”としての役割を果たします。

はじまるよ！

ふくい文化創造センター オープンしました



文化芸術を知りたい、創りたい、応援したい県民に向けて
「ふくい文化創造センター」を令和7年4月に開設しました。

文化芸術に関する専門スタッフを新たに配置し、相談窓口の強化や

文化団体の活動に対する助言等の伴走支援を行うアーツカウンシル機能を構築します。

そこから新たな文化創造を促し、人材育成につなげるなど、本県の文化芸術を持続的に発展させる取り組みを行うセンターです。



ふくい文化創造センターが担う

5つの役割

文化を創る人
支える人を
応援しよう！

文化芸術活動実践者への支援

文化芸術活動の担い手を支援し、
福井県の魅力向上や
地域の活性化につなげます。

子どもの感性を
育てよう！

未来人材の育成

子どもたちへ文化芸術に
触れる機会を提供し、
豊かな感性を育て、
次世代を担う人材を育てます。

会社ぐるみで
文化に関わる！

企業の文化活動促進

企業が文化活動に関わる
意義や効果を伝え、
企業の文化活動を促進します。

3つの部門

アーツカウンシル部門

文化芸術活動を実践する団体の支援、
次世代育成、企業の文化活動促進

インクルーシブ部門

障がいの有無に関係なく
誰もが楽しめる豊かな社会へ

音楽文化創造部門

音楽文化に触れる機会を提供

いつでもどこでも
芸術に触れよう！

文化芸術が溢れる
賑やかなまちづくり

文化芸術を気軽に楽しめる
機会を増やすとともに
活動者の発表の場をつくります。

新しい文化を
創ろう！

文化による共生社会の実現

障がいの有無にかかわらず
多様な方々が文化芸術に触れ、
共に生活できる社会づくりを
目指します。

スタッフからの
メッセージ



アーツカウンシル部門

文化芸術活動に取り組む方々の活動の持続・発展に向けたサポートや、新たに何か取り組みたいという方々の想いを実現するためのお手伝いをします。そして、文化芸術をみんなで支える土壌づくりに取り組みます。まずはお気軽にご相談ください！

問い合わせ・相談はコチラへ

公益財団法人 福井県文化振興事業団
ふくい文化創造センター

TEL.0776-38-8280
(9:00~19:00・休館日を除く)



キーパーソン

一般社団法人産業人文学研究所
代表理事 佐藤靖之さん



さとうやすゆき●海外アーティストや版画指導者向けの水性木版画の技術指導と普及に特化したアーティスト・イン・レジデンスを立ち上げる。1994年に兵庫県淡路市で前身となる活動を開始し、山梨県を経て今立に拠点を移す。国際木版画会議の運営を手がけ、2024年には今立地区で第5回を開催した。

水性木版画と和紙産地を深くつなげる施設での学び
技術だけでなく文化を知ることが表現を広げる

和紙産地である越前市今立地区に、水性木版画を学べる滞在型研修施設「国際木版画ラボ」があります。元金物店だった蔵と住居を改装した施設で、運営団体の代表である佐藤靖之さんが管理しています。

受講者は主に外国人。「版画技法を身につけたい」「和紙や道具について知りたい」とヨーロッパ、アメリカ、アジアなど世界各国から訪れます。大学の先生や工房勤務の職人、美術作家など背景も多様で、「自身の表現を広げたい」という想いを持つ人ばかり。研修には基礎を学ぶ「ベーシックプログラム」と表現技法を深める「アドバンスプログラム」のほか、「墨プログラム」「和紙プログラム」もあります。1コース35日間、費用は約50万円と高額にもかかわらず途切れない受講者について、「彼らは和紙の製造過程だけでなく原料や道具について学べ、産地と直接対話できることに感動する。産地

でプロから直接学べる環境は、大きな価値がある」と佐藤さんは言います。単なる技術習得にとどまらず、「芸術と技術」をテーマに掲げ、和紙の歴史や書誌学も伝授。「屏風や掛け軸に使われる紙と糊は、100年後の修復を見据えた素材と技法でできている。和紙が何のために使われ歴史の中でどう発展してきたのか、理解を深めてほしい」と力を込めます。



ベーシックでは水性木版画の経験が浅い作家を対象に基本技法の習得を目指す。アドバンスは掛軸や屏風を制作し日本文化への理解を深める。



講座では和紙工場を見学する。どんな工場で誰が漉いているのかを知り、顔の見える関係から和紙を購入して作品制作をしたいという作家が多い。

【一般社団法人 産業人文学研究所】国際木版画ラボ
アーティストが水性木版画を学ぶ施設「国際木版画ラボ」を整備。2023年に山梨県の富士河口湖町から越前市今立地区へ移転。水性木版画の歴史、表現、教育、技法、素材などについてインストラクターの指導で学ぶ。平成16年設立。

■活動報告はこちら
<https://endeavor.or.jp/mi-lab/>

※アートプロジェクト支援事業助成金の採択事業と活動者をご紹介します。

アートの息吹

M/SPACE (越前市)

越前市の縫製会社「モンスター」の工場内に、昨年11月オープンした「M/SPACE(エムスペース)」。築60年の昭和レトロ感漂う広々とした空間には、多種多様な工業マシンや作業机が据えられています。

元々は使わなくなったマシンを置いていた工場の空きスペース。草桶嘉之社長が「この場所とマシン、縫製技術を生かしてできることはないか」と考え、創作の場として広く活用してもらうことを思いつきました。すでに、も

のづくりの楽しさを伝えるワークショップを不定期に開催。少人数制で熟練の技術者から直接手ほどきを受けながら、半日でトレーナーなどを仕上げられるとあって、リピーターも多いそう。ほかにも服飾を学ぶ学生の作業場に活用する計画が進行中です。

2月には要望を受け、ジャズライブの会場に。市内外から訪れた約100人が音楽を通して交流しました。「アーティスト・イン・レジデンス」に発想を得て、6月にはステンシル作家のワークショップを企画するなど、アートとの出合いの場を広げています。

「世の中をいつも、おしゃべりに」が草桶社長のポリシー。ファッションと音楽、芸術は親和性があるといい、互いに交わり刺激し合うことで見る人もモノの見方が変わると言います。「ものづくりで培った会社の資産を活用して楽しんでほしい、アーティスト支援にもつながれば」と語ります。

株式会社モンスター

1949年(昭和24年)創業。足袋の縫製から始まり、現在は全国の百貨店やアパレル、コレクションブランドから縫製加工を請け負うOEM生産が主な事業。扱いが難しい伸縮性のある生地、縫製の得意とし、オリジナルブランドの開発にも取り組んでいる。ワークショップの情報はSNSで発信。

◎ @m_space_monster

※「アートの息吹」は県内企業のアートを通じた社会貢献活動をご紹介します。

アートプロジェクト インフォメーション 各イベント情報の詳細はこちらをご覧ください



駅ピアノでコンサート♪

6/21(土) 11:45~12:30

上中駅にある駅ピアノを活用して、0歳から大人の方までどなたでも鑑賞できる無料のコンサートを行います。

- JR上中駅 2階 ピアノ前広場
- 無料
- ◎心からコンサート実行委員会
- 公式LINEまたは icocokara.concert.2021@gmail.com

Imadate Art Camp 2025ジュニア展

8/26(火)~9/15(月・祝)

中学生から40代の福井県内のアーティストが制作した、和紙の造形による展覧会を開催します。

- いまだて芸術館
- 無料
- ◎Imadate Art Field ☎090-1394-9964(増田)

アートプロジェクト支援事業助成金は、地域文化の発信や新たな地域文化の創造、地域課題の解決に寄与することを目的に、県内各地で文化芸術を活用した地域活性化に取り組む事業を支援しています。



(公財)福井県文化振興事業団のホームページでは助成事業の一覧をご覧ください。



2025日独交流神和紙展

6/22(日)~6/29(日) 10:00~18:00(最終日~16:00)

県内、県外作家、ドイツ人作家による越前和紙(神和紙)を使った作品の展示やシンポジウムを通して、越前和紙と現代アートの魅力を広く県内外の方々に伝えます。

- 越前市武生公会堂記念館、越前和紙の里 卯立の工芸館
- 無料(卯立の工芸館 300円)
- ◎日独交流神和紙展実行委員会 ☎090-1393-7633(事務局 桑野)

ふくい文化創造センター主催事業

第6回アート茶会

6/20(金) 18:30~20:30

お茶を飲みながらアートや地域づくりについて語り合う気軽なお茶会です。今回はMAGO GALLERY FUKUI オーナーの宮田耕輔さんをゲストにお迎えし、「長坂真護の生き方」についてお話いただきます。ご参加お待ちしております！



- PLAYCE
- 無料

福井で発見「悲しみのマリア像」 秘めた苦難の歴史

「福井の文化」というテーマで原稿を依頼されたとき、一枚の絵画が思い浮かんだ。400年以上前に描かれ、福井の旧家で秘蔵されてきた「悲しみのマリア像」と呼ばれる聖画だ。

県外で開かれた南蛮美術展で初めてその油彩画を目にしたときの衝撃は忘れられない。マリアの慈愛に満ちた表情、厳かで神秘的な雰囲気。まさに息をのみ、しばらく絵の前で動けなくなった。美術史家の宮下規朗氏は「日本にはイタリア美術で見るべき作品はほとんどない」としつつも、このマリア



大正時代に福井市の旧家で発見された「悲しみのマリア像」(大阪・南蛮文化館蔵)

像については「美術の中心地イタリアの第一級の絵画」と著書で評価している。では、なぜそれほど有名な福井にあったのか。調べてみると、そこには多くの謎と迫害をくぐり抜けた知られざる物語があった。

「悲しみのマリア像」は1915(大正4)年に、福井市内で代々医業を営んでいた奥田家で発見された。土蔵の壁の中に塗り込められた竹筒に隠されていたという。この時、銅版画「教会祝日暦」、教義書「こんてむつ・むんぢ」、メダルなど貴重な遺物も多数見つかった。

奥田家は祖先奥田無清がキリシタンで、福井(北庄)城下の町医だった。1581(天正9)年にポルトガルの宣教師ルイス・フロイスが、柴田勝家の治めていた北庄を訪れている。北庄には織田信長によつて追放された高山ダリオ(キリシタン大名高山右近の父)が預けら

福井新聞社特別編集委員
伊与登志雄

れており、ダリオを援助する目的があった。その当時、勝家はキリシタンに寛容だった。フロイス滞在中に50人余が洗礼を受け、小規模ながら教会も建てられたという。マリア像は16世紀後半、イタリア人画家によつて描かれたとみられており、フロイスらイエズス会の布教活動と関係があり、奥田家は信者グループの中心的存在だったのかもしれない。

ところが、キリスト教が禁教となると奥田家は江戸幕府の厳しい監視下に置かれる。無清はキリシタンの嫌疑で1642年に江戸へ送られ、翌年病死あるいは刑死したようだ。その後、奥田家はキリシタン類族として5代にわたり監視され、医師から職業を変えたり、瀧谷寺(現坂井市三国町)の檀家となつたりしている。

近年、台所の水屋引き戸の裏に描かれ、このマリア像を模写したような絵が報告された。そこには長崎の洗礼者15人の署名が添えられていた。さらに、福井のマリア像と似た構図のマリア像がイタリアで確認された。研究者によ

ると、シビオーネ・ブルツォーネという16世紀のイタリア人画家が描いた「美しき聖母」(1583年)で、伏し目がちの表情がそっくりだ。

イタリアー長崎ー福井とつながるマリア像。一体誰がどのように伝えたのか、多くの謎が残る。さらに絵画の旅は続き、福井市で発見されて以降、埼玉、福井市に渡り、収集家の林若樹氏、池長孟氏を経て、大阪の北村芳郎氏が購入した。現在は北村氏が1968年に設立した南蛮文化館(大阪市北区中津6丁目)で、開館月の5月と11月の年2回公開されている。

マリア像には、縦横に多くの皺が刻まれ痛々しい。修復も可能だが、北村氏の長女で現館長の矢野孝子さんに何うと「迫害をくぐり抜けた歴史を語り継ぐためにも皺はそのままだにしておきます」ときっぱり。

今年は、柴田勝家の北庄城築城開始から450年。城下町で一時期花開いたキリシタン文化の面影、信者らが守り抜いた信仰心と苦難の歴史を、マリア像はこれからも伝え続けてゆくだろう。



いよ・としお●1960年福井市生まれ。東京大学法学部卒業。83年福井新聞入社。編集局文化生活部記者、社会部編集委員、小浜支社長、経済部長、文化生活部長、報道センター長、論説主幹を経て、2021年から参与・編集局特別編集委員兼論説委員。

古きを訪ねて

庚申信仰 (小浜市)



- ① 無数の「身代わり猿」が吊るされた庚申堂の軒下
- ② 歴史の面影を残す通りに彩を添える「身代わり猿」
- ③ 世話人会により受け継がれている60日ごとに巡る庚申の日のお参り
- ④ 大祭で供える三角のコンニャク



■庚申堂/小浜市小浜飛鳥8-2
アクセス/JR小浜駅から徒歩20分
舞鶴若狹自動車道小浜ICから車で10分



■Information
・大祭/令和7年は7月27日(日)
・「庚申堂 de 夜更かし」
令和7年は10月18日(土)16:00~
コンサートの他、三戸の虫が出てこないように庚申堂で賑やかに過ごすイベントを開催

※小浜西組…江戸時代、京極高次のまちづくりにより、町人地を東・中・西の3組に分けたもので、現在も通称として使われている

軒下の猿が災いの身代わりに

黒塀や出格子のある町屋が並び、落ち着いた風情の漂う小浜西組(国の重要伝統的建造物群保存地区)。その一角、三丁町界隈の町屋の軒下に、猿の飾りが吊り下げられています。「身代わり猿」と言われるこれは、かつて全国的に盛んだった「庚申信仰」と深い関わりがあります。

「庚申信仰」は道教に由来し、60日ごとに巡る庚申の日、人が眠っている間に、体の中にある三戸という三匹の虫が体から抜け出し、人の愚行や罪を神に密告するとされます。この三戸の厄を払うのが庚申堂に祀られる青面金剛。その使いである猿が厄災の身代わりになると考えられ、手足を括った猿のお守りを吊るすようになりました。

小浜西組の庚申堂は1649(慶安2)年に小浜藩主・酒井忠勝の息女の起願により建立されたもの。現在のお堂は戦後の荒廃を経て1972年に住民

らが浄財を出し合い再建されました。庚申の日にはこのお堂にこもり、三戸の虫が体から出ないよう寝ずに過ごす慣わしがあり、かつては近隣住民がお堂で賑やかに庚申の夜長を過ごしていました。また、北を向いて無言でコンニャクを食べれば、今夜苦から逃れて願い事が叶うとされ、今も7月の大祭で参拝者に一串100円で提供されています。

祭りやお堂の世話が続けているのは、飛鳥区と香取区の有志による「庚申堂世話人会」。民間信仰が衰退し、各地でお堂や祭りの維持が困難になるなか、庚申堂の伝統を地域の文化として、大切に守り継いでいます。昨年から多くの方がお堂に親しめるように「庚申堂 de 夜更かし」と題したイベントを開催。地域の文化やお堂に集積された人の思いに触れる機会は、訪れる人の心の癒しにもなっているようです。

HARMONY HALL FUKUI presents ミュージカル「雪の女王」全キャスト決定！

来年2月に満を持して再演するオリジナルミュージカル「雪の女王」の全キャストが決定しました。多彩なメインキャストに加え、県民を中心とした10代～70代の63名のアンサンブルキャストが出演します。

開催日時／2026年2月20日(金)～23日(月・祝) 計4回公演 会場／ハーモニーホールふくい 大ホール

出演者／鶴見辰吾(語り手 ほか)、丘山晴己(雪の女王)、折井理子/中城杏梨(ゲルダ※)、石津秀悟/古田伊吹(カイ※)

小林大祐(トナカイ ほか)、北川辰彦(悪魔 ほか)、GOH IRIS WATANABE(バラの精 ほか)、篠木隆明(山賊の娘カリン ほか)

井上一馬(雪の軍団 隊長 ほか)、蛭牟田実里(オーロラの精 ほか)、岡野一平/橋 未佐子(ハト ほか) ほか、総勢77名 ※Wキャスト

小野リサ ポサノバコンサート「アゲイン」

主催：福井新聞社

日本におけるポサノバの至宝・小野リサが再びハーモニーホールふくいに登場！2023年の完売公演から2年、洗練されたサウンドと心に響くリズムでポサノバの魅力をお届けします。

開催日時／9月6日(土) 14:15開場 15:00開演 会場／ハーモニーホールふくい 大ホール

料金／全席指定・車いす席 ¥6,500 (小～大学生:半額※) ペア券 ¥11,000 ※ハーモニーホールふくいチケットセンターのみの取扱い

出演者／小野リサ(ギター、ヴォーカル)、林 正樹(ピアノ)、クリス・シルバースタイン(ベース)、斉藤 良(ドラム)



小野リサ

横山だいすけ My Songs Concert

主催：MIN-ON

“うたのおにいさん”として人気を博し、「だいすけロス」を巻き起こした横山だいすけ。「歌でもっと多くの人々に勇気と笑顔を届けたい」と、クラシックやJ-POPにも挑戦し、幅広い世代が楽しめるステージを繰り広げます。

開催日時／11月9日(日) 14:15開場 15:00開演 会場／ハーモニーホールふくい 大ホール

料金／全席指定・車いす席 ¥6,500 (5歳～大学生:半額※) ※ハーモニーホールふくいチケットセンターのみの取扱い

出演者／横山だいすけ(ヴォーカル) ほか



横山だいすけ

大人のくつろぎ音楽堂フェス JAZZ井(ジャズイ)

主催：福井新聞社

UAを筆頭に、ジャンルを超えて活躍する豪華アーティストや気鋭のミュージシャンが集う、大人のためのホール型ジャズフェスティバルです。ここでしか見ることのできない、化学反応をどうぞお楽しみに。

開催日時／11月22日(土) 14:00開場 15:00開演 会場／ハーモニーホールふくい 大ホール

料金／全席指定・車いす席 ¥8,500 ペア券 ¥15,000

出演者／UA、山下洋輔(ピアノ)、菊地成孔(サクソ)、ソエジマトシキ(ギター)、坪口昌恭(総合プロデューサー、ピアノ) ほか



UA

本人認証サービス「3Dセキュア2.0」ご登録必須化のお知らせ

「ハーモニーホールふくい」インターネットチケットサービスにてクレジットカードでお支払いをされる場合、第三者による不正利用防止のため、本人認証サービス「3Dセキュア2.0」の登録が以下の日付より必須となります。

本人認証サービス「3Dセキュア2.0」未登録、または非対応のカードはご利用になれません。ご利用のカード発行会社のホームページなどで、事前にご本人様よりご登録をお願いいたします。ご登録方法など詳しくはご利用のカード発行会社にお問い合わせください。

●運用開始日：2025年9月9日(火)

ご利用中の皆様にはご面倒をおかけいたしますが、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

9/6(土)公演 会員先行 特別協賛：6/17(火) 友の会：6/18(水) 一般 6/21(土)

11/9(日)、11/22(土)公演 会員先行 特別協賛：8/19(火) 友の会：8/20(水) 一般 8/23(土)

編集後記

前々号にて、今年の干支が脱皮や再生を繰り返すことであることから、「新たな挑戦」に相応しい年と言われていることをお伝えしました。かく申す編集者は、週一回の体力づくりと、アプリを活用した脳トレーニングにトライ中。

福井県文化振興事業団内には4月から「ふくい文化創造センター」を発足させました。従来の音楽堂内外での音楽事業実施に加え、地域で行われている文化活動にお邪魔させていただき種々の相談をお聞きしたり、今後の活動実行に活用いただける講座を実施したりと我々も活動の輪を広げています。一つ一つの活動を検証も重ねながら、新たな取り組みの芽を皆さまで共に育んでいけることを目指しています。

【ハーモニーホールふくい 特別協賛社ご芳名】※50音順

公演協賛社(2025.4-2026.3)

URALA communications	関西電力 power with heart
(公財)げんてんふれあい福井財団	Kanetsu 興和江守株式会社
NICCA	FM FUKUI
福井銀行	FCTV SCTV
福井新聞社	福井信用金庫
福井テレビ	FBC
FUKUUI	株式会社増田喜
ますも証券	

法人協賛社

JAKUETS	株式会社新内	県民福井	福井銀行	福井県JAバンク
福井信用金庫	FUKUUI	北陸銀行	三井商事株式会社	

Essay

地域文化の中にある学びと体験

文 朝倉由希

私が生まれ育った一乗谷の奥の集落では、毎年5月5日に「したんじょう」という子どもたちが主役の民俗行事が行われる。少子化により継承は困難になっており、もとは集落内の男子だけのお祭りだったものに女子が加わり、地区外からの参加も募るなど、形を変えながら継続してきた。450年以上前から伝わり、田畑を荒らすシシを殿様が退治したことに由来するといわれているが、はっきりとしたことは分らない。それよりも注目すべきは、昔は子どもたちだけで行事が自主的に運営されていたことである。



福井県指定無形民俗文化財「したんじょう」(2018年の様子)。子どもの行列がシシを連れて集落を歩き最後は退治する。

近世のしたんじょうの様子はどのようなものだったのだろうか。15歳までの男子の集団により、遊びを取り入れながら徐々に工夫を凝らし、時にはケンカもしながら協力しあっていた様子が想像される。

戦後の様子は、現在70歳代以上になった方に話を聞くことができる。今は大人が組み立てる木組みのシシを、当時は中学生が作っていたという。重いシシを担ぐのも今では大人の役割だが、かつては中学生だけで担いでいたようだ。

50年ほど前から女子が参加するようになり、私自身も小学生の頃、法被を着て練り歩いた。いつも遊んでいる近所の子ともたちが、この日は地域のために役割を果たす。特徴ある祭りに参加する誇りと、担い手としての責任を、ほんの少し感じていたように思う。この頃すでに親たちがかかり手伝って成立していた。

現在では地域の子ともたちが主体的に運営する動きはほなくなつた。子どもの人数が少なく、大人が

準備に加わらなければ立ちゆかない。地域外の子どもの参加協力を得て実施するため、致し方ないことではある。

昨今、少子化に加え子どもの「体験格差」が課題になっており、経済状況と連動するといわれている。ここでいう「体験」は、お金をかけて塾や習い事、旅行を通してするものやうだ。現代の子ともたちの「体験」は地域社会と切り離されてしまったのか。もちろんお金が必要なこともあるが、身近な場所で学べることも豊かな価値がある。

かつて農村の子ともたちは地域行事を通じて自主性と協調性を育み、そこには生きた学びがあった。昔の慣習には現代の価値観になじまないものもあり、そのまま復活させることが良いとは思えないが、今の子どもたちに求められる主体性や生きる力は、このような場で育まれるもののように思えてならない。県内の豊かな地域文化を、学びの場として生かす道がもつと開かれてほしいと思う。



あさくら・ゆき●福井市生まれ・在住。京都大学文学部卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科応用音楽学博士後期課程修了。博士(学術)。アートマネジメント、文化政策を専門とする。2017年度から文化庁地域文化創生本部研究官。2021年4月から公立小松大学国際文化交流学部准教授。福井県芸術文化アドバイザー。共著に「文化で地域をデザインする―社会の課題と文化をつなぐ現場から」(学芸出版社、2020)など。